

めぐみイエス・キリスト教会

2025年2月23日(日)第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第747号」



2025年標題聖句

イザヤ書40章30節～31節

《若者も疲れて力尽き、若い男たちも、つまずき倒れる。しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように、翼を広げて上ることができる。走っても力衰えず、歩いても疲れぬ。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌102「主は命を」 p. 142

【交読文】 No.51 マタイの福音書5章(抜粋) p. 920

【賛美Ⅱ】 新聖歌235「罪重荷を除くは」 p. 356

【使徒信条】

【主の祈り】

【前回説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル新曲「神様は」

【聖書朗読】 ルカの福音書8章31節～39節

【礼拝説教】 《レギオンからの救い》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカ8章31節～39節)新約p.129上段

8:31 悪霊どもはイエスに、底知れぬ所に行けと自分たちにお命じにならないようにと懇願した。

8:32 ちょうど、そのあたりの山に、たくさんの豚の群れが飼われていたので、悪霊どもは、その豚に入ることを許して下さいと懇願した。イエスはそれを許された。

8:33 悪霊どもはその人から出て、豚に入った。すると豚の群れは崖を下って湖へなだれ込み、おぼれて死んだ。

8:34 飼っていた人たちは、この出来事を見て逃げ出し、町や里でこのことを伝えた。

8:35 人々は、起こったことを見ようと出て来た。そしてイエスの所に来て、イエスの足もとに、悪霊の去った男が服を着て、正気に返って座っているのを見た。それで恐ろしくなった。

8:36 見ていた人たちは、悪霊につかかれていた人がどのように救われたか、人々に知らせた。

8:37 ゲラサ周辺の人々は皆、イエスに、自分たちの所から出て行ってほしいと願った。非常な恐れに取りつかれていたのであった。それで、イエスが舟に乗って帰ろうとされると、

8:38 悪霊が去ったその人は、お供をしたいとしきりに願った。しかし、イエスはこう言って彼を帰された。

8:39 「あなたの家に帰って、神があなたにして下さったことをすべて、話して聞かせなさい。」それで彼は立ち去って、イエスが自分にして下さったことをすべて、町中に言い広めた。

●ポイント1. マタイの福音書における平行記事から

※マタイの福音書8章26節～29節「異なる人数」 (新約p.14下段)

8:28 さて、イエスが向こう岸のガダラ人の地にお着きになると、悪霊につかされた人が二人、墓場から出て来てイエスを迎えた。彼らはひどく狂暴で、だれもその道を通れないほどであった。

8:29 すると見よ、彼らが叫んだ。「神の子よ、私たちと何の関係があるのですか。まだその時ではないのに、もう私たちを苦しめに来たのですか。」

●ポイント2. マルコの福音書における平行記事から

※マルコの福音書5章13節「二千匹ほどの豚の群れ」(新約p.74上段)

5:13 イエスはそれを許された。そこで、汚れた霊どもは出て行って豚に入った。すると、二千匹ほどの豚の群れが崖を下って湖へなだれ込み、その湖でおぼれて死んだ。

◎先週のメッセージ【ゲラサ人の地において】

《さて、「向こう岸」とはゲラサ人の地で、そこには、デカポリス(10の町という意味)の一つであったゲラサの町がありました。

主イエスはすでに、ゲラサにおける大きな問題を知っていました。それが、悪霊に取り憑かれた男の事だったのです。彼には家族があり、私はこの家族の切なる祈りと願いが、主に届いたと考えています。

さて、主が岸边に上がられると、裸の男が御前にひれ伏しました。「いと高き神の子イエスよ、私とあなたに何の関係があるのですか。お願いします。私を苦しめないで下さい。」主は、陸に上がられた時に、悪霊に向かって、「ここから出て行け」と言われたことが考えられます。

さて、悪霊に取り憑かれることと悪霊の支配下にあることとは、若干、状況と意味が異なります。救われる以前の私たちは、パウロが言うように、確かに悪霊の支配下にありました。しかし、悪霊に取り憑かれる事とは、さらに一歩も二歩も進んだ状態で、その人の肉体だけでなく、魂と霊までもが、完全に支配されることを意味しています。よって悪霊は、その人の唇を用いて語る事が出来ます。

「おまえの名は何か。」

「レギオンです。」

「レギオン」とは、ローマ軍の一師団(六千人)にあたります。それほど多くの悪霊が、この人に取り憑いていたことには驚きです。

私たちクリスチャンの戦う相手は、悪魔と悪霊なのです。尾山先生は何度も、「私たちは戦場の最前線に配置されています。生きるか死ぬかの戦いの真っ只中にいます。」と、言われました。

悪魔と悪霊は、私たちを何とか弱らせて、また祈らせないように、聖書を読ませないようにと攻撃して来ます。それゆえに、武具と武器を持つ必要があるのです。それは、信仰の盾、救いのかぶと、御霊の剣(神の言葉)であり、あらゆる祈りと願いを持つことなのです。》

◎お知らせ

※次回は2025年3月2日午前10時より、通常通り行ないます。